

2022年度 学校(自己)評価書 (中等部)

東海大学付属静岡翔洋高等学校・中等部

5～1は教員評価 (5よい 4おおむねよい 3どちらともいえない 2やや不十分 1不十分)

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営	年間教育目標の実践と点検・現状における課題の解決および改善に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特色が明確に打ち出され、一人ひとりの教員が、教育方針を理解し、熱心に教育に取り組んだ。 ・教職員は生徒募集目標達成の為に保護者・地域との連携や情報発信に努めた。 ・「夢中って無敵」のスローガンの下、積極的に学校改革に努め、周囲から高評価を得た。 ・教員間の意思の疎通・連携が十分でない部分があった。 ・生徒全員がiPad所持の年度となり、今後教員全体の更なるICTに関するスキルアップが必要となる。 	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・学園・学校の基本的な教育方針を十分に理解し、具体的な目標を持って日々の授業や生徒指導に取り組む。 ・本校生徒の頑張りや教育の特色をHPやFBIにアップすること、広報紙を配布することの二本立てで情報発信する。学年ごとで担当者を決め定期的な発信に努める。 ・* S 教員の休暇前日の仕事引継ぎを徹底する。学年主任がコンセンサスをとる。 ・iPad活用のための定期的な勉強会の実施。 ・学年や教科間での定常的な授業見学の実施。 ・* S 教員：日曜日を勤務日とし、その週の平日に週休を取得する教員。
学習指導	基礎学力の定着と授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜・金曜の朝の学習とそのほかの曜日での「朝の読書」により、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を始めさせることができた。また「朝の学習」においては、満点でない放課後再試を徹底しているため、生徒の意識は向上した。 ・iPadを用いて授業の指導方法など工夫がなされている。 ・年間3回の授業評価アンケートを通じて授業の見直しを行い、授業改善を図った。 ・基礎学力の向上はもとより、学年の指導により高校進学に対する意識が向上した。 ・家庭学習の習慣を完全に身に付かせるまでには至らなかった。 ・学習のために図書館を積極的に利用させることができなかったが、インターネットを活用した授業が増加している。またCocoaは図書館へ気軽にいきかけとして良い効果があった。 ・土曜日の選択授業は、教員の加-がよくなっていった。講座ごとに適正人数で本年度は行ったが、次年度は30名まで対応できるようになれば、教室が足りないという問題に対応できる。 	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のつまづき箇所の確認を行い、ICT環境 (GoogleWorkSpace) なども利用して、学び直しの機会を定期的に与えることに努める。 ・Smartyの正答率などから、生徒の抜け漏れをより具体的に把握し、基礎学力の定着に務める。 ・研究授業や、相互授業参観などを通じて、授業力を上げる努力をする。 ・図書館の利用した本のランキングを朝礼発表に取り入れる。 ・学年主導による計画的な家庭学習課題を提示し、達成度を確認する。
クラス指導	遅刻・欠席・早退のないクラスづくり お互いが高めあえるクラスづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・担任はそれぞれの生徒をよく観察し、個人に対して的確な指導をすることができ、人間関係の構築に努めることができた。 ・学年主任は日頃から各クラスの特徴や担任の特徴を把握し、必要に応じてアドバイスをするなど、学年のリーダーとしての役割を果たすことができた。 ・各学年が遅刻や欠席の少ないクラスづくりに努めた結果、遅刻や欠席が限定的な事柄になった。 ・例年に比べて不登校者数も減りクラスのトラブルや保護者とのトラブルが減った。 	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉講座においては他学年のそれぞれの取り組みや合唱コンクール並びに建学祭へ意識変更などから、時間が取れず検討が必要である。 ・担任と教科担当は、生徒の学習環境をきちんと管理するために情報交換を行い、頭髪・服装の指導も常に心がける。 ・公共の場でも常に生徒が本校の一員であることを自覚した行動ができるように指導を行う。 ・人間関係のトラブルは減少傾向にあるので、今後もゼロに近づくように教師陣が共通理解のもとで正しく改善できるよう協力していきたい。
生活指導	あいさつ、礼儀、身だしなみ、美しい環境作りの指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も、生徒部として「挨拶・礼儀・身だしなみ・美しい環境づくり」を合言葉に活動した結果、確実に生徒に浸透している。しかし、あいさつについて見直しの必要があった。 ・教職員は校内の整理・整頓指導を意識して行った。いつでも、どこでも常に美しい環境を今後とも継続していくことが必要である。 ・生徒の頭髪・服装に関しては、年間通じて統一した指導の回数が少なく課題が残った。 	4.1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々に「挨拶・礼儀・身だしなみ・美しい環境づくり」を合言葉に教育活動を実行していると認識していただけるように日常的に生徒指導をしていく。 ・登下校の自転車マナーについて、近隣からの苦情連絡も事故も減った。今後も危険箇所の指導は継続していく必要がある。しかし鍵の施錠など自己管理に課題が残った。 ・一方、スクールバス利用者の増加により、各停留所での送迎マナー改善に保護者の協力をいただくことが今後の課題である。 ・担任と教科担当は生徒の学習環境をきちんと整えることを心がけ、始業前の机の配列・挨拶・毎日の清掃活動の指導を日常的に意識して行う。 ・iPad導入に伴い、使用方法や管理については大きな問題はなかった。
進路指導	翔洋高校への具体的なイメージづくりと進路決定についての早期化	<ul style="list-style-type: none"> ・秋のオープンキャンパスに全員が参加し、中学2年次で参加させて頂いた「サタデーセミナー成果発表会」の授業を体験することができ、翔洋高校を深く知る機会となった。また、中等部のみ入試説明会に生徒参加型であったため翔洋高校の先生方を知る機会となった。 ・校外模試を50点で採点し、外部との比較や自身の課題が明確になり、高校入試へ向けての準備において効果的だった。 ・全員が参加する放課後講習を廃止し、毎週水曜日にオンライン課題を配信し、未提出者指導まで行った。 ・進路について日常的に担任との面談を繰り返し、慎重に進路希望の確認を行った。 	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセルコースを目指す生徒への放課後講習を2学期に実施することも検討したい。 ・中学2年次に海洋学部・湘南校舎への見学などを行うと、翔洋高校への進学意義が更に理解されるのではないだろうか。
特別活動	生徒会活動と部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への取組に対する評価は、生徒・保護者・教職員ともに共通して高い。 ・今年度も学年チーフを軸として、生徒間の諸問題に速やかな対応ができ、スムーズな生徒指導とともに、先生方との共有もはっきり行うことができた。 ・生徒会選挙では、多数の立候補者が立候補し、今年度も適切な学校のリーダーを選出することができた。 	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強と部活動の両立、部活動の前にはまず勉強、と指導しているが、学習への取り組み状況は今後も課題である。特に5教科以外の教科についてははっきり具体的な学習目標を立てる中で学習させたい。 ・実技教科についても、期末試験の実施を具体的に検討した。最大限の中で実施することができた。 ・生徒会選挙における演説や応援演説の仕方についてと、投票方法においても昨年の課題をクリアすることができた。
研究・研修	授業改革の推進 学校情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度はコロナ禍のため保護者向け公開授業を中止した。 ・教員の授業力向上を目的に、学期末ごと授業評価アンケートを実施 (生徒対象)。その授業評価アンケートの結果からベストティーチャーを決定した。 ・新任教員の研修を1年かけて実施。研究授業、振り返り、他の授業見学を通して授業力向上に務めた。 ・教員研修の実施。①全教員で見合う授業研修の実施②各教科での研究授業の実施③指導案の整理 ・コロナ禍ではあるが、学校報『SHOYO Nowadays』を月1回程度発刊し、生徒・保護者へ校内の様子を伝えた。また中等部生の活躍を紹介する「羽ばたき」を4月に発行した。PTA広報誌「海涛」の制作では広報委員にご尽力いただいた。 ・ベストクラス賞の在り方を見直した。評価項目を直してポスターをリニューアルし、中間発表や結果発表の持ち方についても改め、意欲を引き出すものになるように考えた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力向上を目標に、定期的に教員研修を実施することで、教員の更なるスキルアップを目指す。 ・総合学習のあり方について、本校では現代文明論の果たす役割が大きい。道徳教育やSDGsなど社会問題と関連付けて考えるなど内容の充実を図る。 ・ボランティア活動及び防災教育など、地域に開かれた取り組みを積極的に展開していく。
その他				